

日本保育学会において倉橋賞受賞

広島市内における幼稚園児の

体力・運動能力についての調査研究

—そのⅡ 幼児の体力・運動能力と環境についての分析—

広瀬ハマコ 水間恵美子 戸波 和子

神田 聖子 嶋田 純子

目的：広島市内の幼稚園児に体力・運動能力テストを実施して、広島市内の幼児の体力及び、運動能力の現状を明らかにし、幼稚園の体育指導の基礎資料を得る。

特に本研究では、研究発表Ⅰにおいて調査された広島市内幼稚園の園児の体格、体力、運動能力の測定値を、Zスコアーを使って各種目を標準化することによって、各園の体格、体力、運動能力のプロフィールを作製する。それから各園の特徴を知り、その特徴はその園のおかれている社会的、地理的条件及び、園の施設などの相互作用によるものと考えられる。

それらと各園のプロフィールとの関係を分析する。

調査方法：(1)調査期日 昭和四三年一月一〇日～三十一日(体力

・運動能力調査)三月一八日～二五日(施設調査) (2)調査対象

広島市内六幼稚園H、C、M、F、J、G園 (3)調査項目 1.各園

の体格、体力、運動能力のプロフィール 2.各園の園地と施設の

調査 (4)調査方法 各園の体格、体力、運動能力のZスコアーによ

るプロフィール。調査幼稚園児八二四名の体格、体力、運動能力の

一三種目。幼稚園児八二四名の一三種目の測定値のZスコアーに

より標準化し、各園の男女別の平均値を求めた。それから一三種

目別のZスコアーの得点によるプロフィールを作製した。(表1)

2.各園の園地と施設の調査は広島市内の六幼稚園を直接訪問し

て、園地の面積、及び施設の調査をした。その結果は表2の通り

である。

表 1 各園の体格, 体力, 運動能力のZスコアによるプロフィール

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
		身長	体重	胸囲	座高	25m走	立幅とび	硬式テニスボール投	けんすい	片足連続とび	連棒上立	体支持持続時間	伏せ時	上体そら	サーキットジャンプ
H園	男	52.3	50.5	51.6	52.6	49.3	47.0	49.0	47.6	49.3	50.0	47.3	50.3	47.0	
	女	49.7	48.3	49.3	52.0	48.6	49.0	54.7	49.0	50.0	49.7	47.7	60.7	47.3	
C園	男	51.7	48.7	52.6	50.0	52.3	47.7	50.3	55.7	52.7	54.7	53.7	52.7	51.0	
	女	50.3	48.3	53.3	49.0	53.3	53.3	54.0	55.1	52.0	49.3	52.3	50.6	52.6	
M園	男	52.3	52.6	51.6	52.6	51.0	39.3	49.7	49.0	49.0	50.3	56.7	51.3	52.3	
	女	52.0	52.7	48.7	52.0	48.0	46.7	48.0	49.0	48.7	51.0	50.3	47.0	49.7	
F園	男	49.3	50.3	49.0	49.6	46.3	52.3	54.6	50.6	52.6	46.6	50.3	53.6	50.0	
	女	45.6	46.3	44.0	48.3	46.0	54.0	50.0	47.0	52.6	50.3	49.3	54.6	52.0	
J園	男	47.7	47.3	49.3	47.0	48.0	45.3	51.0	48.3	45.3	48.0	49.0	49.7	49.3	
	女	49.3	50.3	48.7	51.3	52.7	50.7	44.7	46.7	44.3	46.3	47.3	53.3	49.3	
G園	男	48.3	48.0	48.0	49.0	49.6	47.3	53.6	47.3	51.6	48.6	51.6	52.6	47.7	
	女	51.3	48.3	46.7	53.3	49.7	46.3	49.3	45.7	54.0	52.3	50.7	49.3	50.3	

〈備考〉 1~4 (体格) 5~9 (運動能力) 10~13 (体力)

表 2 各園の設備と面積

		園名						
		H園	C園	M園	F園	J園	G園	
懸垂力	ジャンプ	1	1	1		1	1	
	低登回	2	5	3	4	3	3	
巧緻性	ぶすた	1		2	1	1	1	
	の	1		1	1	1	1	
跳力	砂	1	1	1	1	2	1	
	の							
その他	在園児	180	312	223	70	154	90	
	運動場	330	889	396	1320	528	2146.7	
その他	総面積	1221	1534	858	1485	1695	2312	
	1人当りの面積	6.6	5.1	4.3	21.2	11.0	25.7	
文部省基準運動場の面積		560	880	640	400	560	400	

調査結果及び考察:

(1)各園の社会的、地理的環境

H園は広島市の東部の小高い公園の麓に位し、運動場は狭く、毎日の遊びは広大な公園のグラウンドに登ってのびのびと遊ばせている。

C園は広島市の中央部に位し、近くに大きな商店街があり公舎や学校、百メートル道路に囲まれている。園児の大多数は、遠距離の通園バスを利用している。

M園は広島市の西部に位し、近くには中級以上の住宅が立ち並び、教会付属幼稚園として建てられている。運動場は狭いが、全園児が徒歩通園をしている。

F園はM園と近く、山ぎわに位し、小高い神社の階段を上った境内に保育室や広々とした運動場があり、大きな木々や岩山等を利用して園児は元気に遊んでいる。しかし園舎が古いために園児が少ない。

J園は広島市の南部に位し、小さな商店街に囲まれている。運動場が狭いので教師は近くにある市営の遊園地を利用するが、バス路があるために毎日の利用はできない。

G園は広島市の東北部の山間部に位し、麓には中級以上の住宅街が開かれている。園児の半数が坂道を登っての徒歩通園で、半数は約二〇分以内のスクールバスを利用している。

(2)各園のZスコアによるプロフィール(表1、図1~6参照)
各園のプロフィールは図1~6の通りである。これは各測定値の平均が五〇点であり、五〇点以上であればその種目の平均より優位であり、以下であれば平均より低位と解される。

H園のプロフィール(図1参照)男子の体格は平均より高いのに、体力・運動能力が女子より低い。女子の伏臥上体そらしが非常に高い得点を示しており、女子の柔軟性が園の特徴として考えられる。

— 男子
- - - 女子

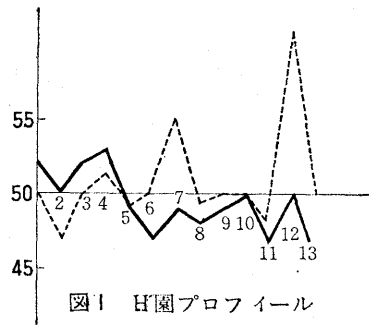


図1 H園プロフィール

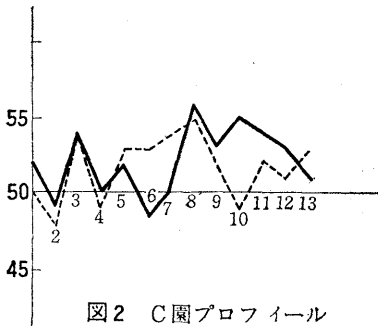


図2 C園プロフィール

C園のプロフィール(図2参照)体格は男女共、体重がやや少ない傾向を示しているが問題はなく、男子は運動能力より体力が平均よりよく、女子は体力より運動能力が平均より高くなっている。特に男女共高い得点を示しているのはけんすいであり、上肢の筋力が強い。これは他の園に比べて意欲的な性格傾向が影響していると考えられる。

M園のプロフィール(図3参照)体格が六園の中では男女共に最も優位にあるのに、運動能力は平均より低位にある。特にM園では男子の立幅とびが低い。逆に棒上片足立ちなどの体力の種目が優位にある。

F園のプロフィール(図4

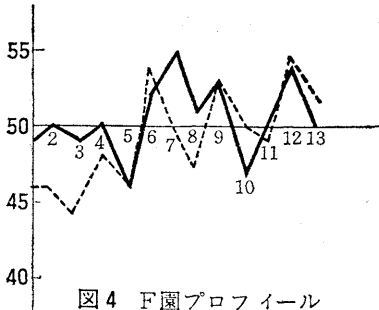


図4 F園プロフィール

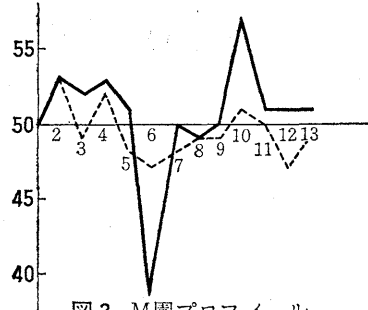


図3 M園プロフィール

参照) 体格は他の園とは反対に、男子が平均より低いのが特徴であり、その傾向は体力・運動能力にも影響して、男女共平均より低位の傾向を示している。

G園のプロフィール(図6参照) 体格はJ園と同じく男子が平均より低い、体力は平均より優位であることを示している。運動能力は男女共

参照) この園は他の園と比較して、男女共体格が平均より低位にある。特に女子が低いのが特徴である。しかし、運動能力が平均より優位であることは非常に珍しい傾向で、これは園の体育的環境がすぐれているものと解される。

J園のプロフィール(図5参照) 体格は他の園と比較して、特に目立つのは、比較的下肢が強いのに上肢の筋肉が弱く、けんすい力が低いのが特徴として考えられる。

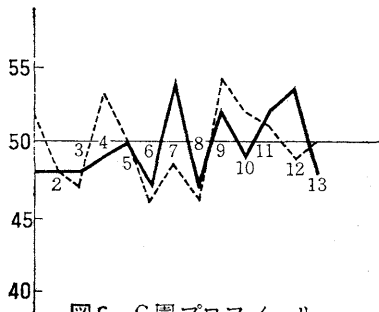


図6 G園プロフィール

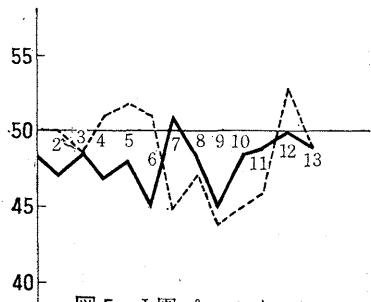


図5 J園プロフィール

・運動能力の低いM園は、運動場が文部省の基準運動場面積の1/2であるために、園児の体育指導が十分に行なえない現状ではなからうかと推察される。故に体力・運動能力の低いのは園児の運動量が少ないのがその原因の一つではないかと考えられる。また、F園、G園の如く運動場が文部省の基準面積の2倍以上もあるのにけんすいなどの筋力を

に低い。特に目立つのは、比較的下肢が強いのに上肢の筋肉が弱く、けんすい力が低いのが特徴として考えられる。

(3)各園の面積及び設備(表2参照) 1.運動遊具、表2の通りである。この表から考えられることは、運動遊具の設備が充実しているのに体力・運動能力の低いM園は、運

使用する種目が低いのは、けんすい力などを養成する遊具が十分であるという結果が表2よりわかる。2. 幼稚園の面積、保育室の面積は各園共に約四〇立方メートルで同面積であるが、運動場の面積には差異がある。文部省の基準と比較してみると、運動場が $\frac{1}{2}$ の面積、二倍以上の面積の園に分類されるようである。二倍以上の面積をもつ、F、G園では園児がかけっこなどの下肢を使うことが多く、運動量が多いため下肢を使ってする種目の運動能力が優れている。しかし、G園などのように運動場に立体的に運動遊具が設置され、それをうまく利用して園児の体育指導を行なっているところでは、体力・運動能力が平均している。

要約：広島市内六園の体格、体力、運動能力のプロフィールと社会的、地理的条件及び各園の施設調査の結果から次のことが考えられる。

I 運動場が文部省基準面積の $\frac{1}{2}$ 以下の園では体格が優れていても体力・運動能力が低い。また、体格が低位にあっても運動場が基準面積の二倍以上ある園では体力・運動能力がすぐれているなどの結果から、幼児においては運動場の面積が体力・運動能力の発達と密接な関係があることが考えられる。

II 運動場の面積が基準程度でも、運動遊具を立体的に利用した体育指導によっては体力・運動能力の発達を促進することができると考えられる。

そのIIのまとめ（要約）

広島市内六園の体格、体力、運動能力のプロフィールと社会的、地理的条件及び各園の施設調査の結果から次のことが考えられます。

(1) 運動場が文部省の基準面積の $\frac{1}{2}$ 以下の園では、体格がすぐれていても、体力、運動能力が低い。また体格が低位にあっても、運動場が基準面積の二倍以上ある園では体力、運動能力がすぐれているなどの結果から、幼児においては、運動場の面積が、体力、運動能力の発達と密接な関係があることが考えられます。

(2) 運動場の面積が基準程度でも運動遊具を立体的に利用した、体育指導によっては、体力、運動能力の発達を促進することができるのではないかと考えられます。

ここで私共が考えなければならないことは広い運動場にただ遊具の設置をするのでなく、できるだけ、広々と活動できる、運動場に、またその幼稚園に必要な遊具を適切に設置し、またその機能をいかした、体育あそびの指導を、今後、専門家の指導を受けながら、立案し、実践する必要があるように思います。

今後この研究を継続して行きたいと思えます。

広島女学院大学

広島女学院ゲーンズ幼稚園